



TOEIC® Listening & Reading Test の Part 5 について考察する

—ETS 作成問題の分析を通して—

井 上 治

概要 本論文では、1年生の前期のリーディング・クラスにおいて使用した、ETS作成の『公式 TOEIC® Listening & Reading トレーニング リーディング編』の Part 5 の50問について、Google Forms で収集した回答を分析する。その分析結果を通して、①受講生の得意・不得意の傾向を把握して、同じ受講生を担当する後期科目において活用する、②受講生の得意・不得意の傾向を他の教員にも共有してもらい、必要な情報をそれぞれの授業で活用してもらう、③ Part 5 の「語句問題」に関する有益な指導方法を見いだすことを試みる。

キーワード TOEIC® リスニング&リーディング テスト, リーディング・セクション パート 5, 公式問題集, グーグル・フォームズ, 正答率

原稿受理日 2023年9月19日

Abstract In this paper, the author analyzes answer data from students regarding 50 questions of Reading Section Part 5 in *TOEIC® Listening & Reading Test Official Practice Book: Reading Edition* produced by ETS and used in the first-year students' reading classes during the first semester. Data was collected using Google Forms. Through the analysis results, the author aims to (1) grasp the strengths and weaknesses of the students in Part 5 questions and incorporate them into the second-semester reading classes in which the author teaches the same students as in the first semester, (2) to share the information regarding their strengths and weaknesses with other teachers for potential usefulness in their classes, and (3) to discover effective teaching methods for "vocabulary questions" in Part 5.

Key words TOEIC® Listening & Reading Test, Reading Section Part V, Official practice book, Google Forms, Percentage of correct answers

1. はじめに

ここ数年のあいだ、感染症への対策を講じてこなければならなかったという点で、大学の授業運営は常に危機に直面してきたわけだが、その危機に対応するために試行錯誤をくり返す過程において、教員にとって非常に有益なものとなったのがインターネット上のサービスやソフトウェアである。代表的なものとして、教室を飛び出してインターネット上で授業をすることができる Zoom、クラスの受講生への連絡・課題の配布や採点が手軽にできる Google Classroom、アンケートの作成・管理ができるので各種テストにも活用可能な Google Forms などが挙げられる。

その中でも、筆者が最も恩恵を受けているものが Google Forms (以下、GF と表記する) である。GF 以前においては、演習終了後に問題の解説をする際に、受講生の解答をわからずに説明をすることになっていたため、「多くの受講生が不正解であろうし、解説を必要としているであろう」とこちらが推測する問題を中心に行なっていた。したがって、多くの受講生が解説は不要と感じている問題について、長々と詳細に解説を行ない、それが数問に及んでいた可能性も否定できない。科目担当者が授業時にながかりした気持ちにさせられるべきごとのひとつは、「解説を始めると、問題を解くことには一生懸命に見えた受講生の居眠りが教室のあちらこちらで始まる」ことであるが、その居眠りの要因のひとつに、「必要がない問題まで解説することにより、トータルの解説時間が長くなることで引き起こされる眠気」があったことが容易に推察できる。

いっぽう、GF 導入以降では、受講生の各問の正答率を確認しながら解説すべき問題をしぼり込むことができるため、受講生のニーズに合ったサービスを提供できているといえる。現在、本論文で取り上げる今年度担当の1年生のクラスでは、演習終了後すぐは前年度のデータから正答率の低い問題(正答率65%未満の問題)の解説を行ない、その翌週の授業の冒頭で、GF で収集した現クラスの回答を元に、前回解説した問題の中で前年度よりも正答率が大きく下がる問題があれば、注意を喚起するために再度解説するとともに、前回授業時に解説できていない現クラス固有の正答率の低い問題があれば、追加して解説を行なっている。

本論文は、今年度の前期に近畿大学経済学部で筆者が担当した1年生のリーディング・クラス「英語1R」の3クラスで使用した教科書『公式 TOEIC® Listening & Reading トレーニング リーディング編』の Part 5 の50問について、GF で収集した回答を分析す

ることを通して、次の三つのことを試みるものである。

ひとつ目は、分析結果から見える受講生の得意・不得意の傾向を把握して、前期と同じ受講生を担当する後期科目「英語 2 R」において活用すること、ふたつ目は、受講生の得意・不得意の傾向を他の教員にも共有してもらい、必要な情報をそれぞれの授業で活用してもらうこと、そして、三つ目は、Part 5 には「文法問題」と「語句問題(単語・熟語問題)」の2種類があるが、「語句問題」に関する有益な指導方法を見いだすことである。

使用した上記教科書は、日本における TOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC と表記) を含む TOEIC® Program を運営している一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会が発行しているもの、すなわち、ETS (Educational Testing Service) が制作した「公式問題」を収録しているので、TOEIC 関連科目担当者により有益な情報を提供できるのではないかと考えている。

また、筆者はこれまで長らくこの教科書を使用して「英語 1R・2R」の授業を運営してきたが、今年度は同じレベル(4月にオンラインで実施した TOEIC Bridge® Listening & Reading Tests による能力別クラス編成)の3クラスを担当することができている。それだけでなく、これらのクラスは、近畿大学経済学部の3学科(経済学科・国際経済学科・総合経済政策学科)の最上位クラス(経済学科は定員が多いので最上位クラスが他に2クラスある)で、英語の運用能力が高い・英語への興味が大きいクラスである。これら3クラスの全員が7月上旬に受験した TOEIC の各クラスの平均スコアは、経済クラス 512 (Reading 230)・国際経済クラス 604 (Reading 273)・総合経済政策クラス 517 (Reading 229) となっており、近畿大学の1年生の7月の結果としてはかなり高いスコアであるといえる。このような3クラスのデータを分析するので、得意・不得意の傾向がより安定した数値として出てくるであろうため、2年生以上のクラスでも十分に活用できる情報を提供できると考えている。

2. これまでの Part 5 についての指導方法

分析結果を見る前に、以前の論文(2021, 井上117-120)でも紹介しているが、これまでの Part 5 についての指導方法をもう一度まとめておきたい。

まず、リーディング・セクションにおける Part 5 の位置づけという観点からの指導として、Part 7 を1問でも多く解けば解くほどスコアはアップするという筆者の受験体験から、Part 7 に多くの時間を残すために、Part 5 では1問につき30秒以内で解いて15分

以内に通過するように指導している。さらに、今年度は最上位クラスの担当なので、1問につき20秒～25秒以内で解いて、15分以内といわず、できる限り時間をかけずに通過するように指導している。

次に、「文法問題」に関しては、頻出文法事項をまとめた「TOEIC® Part 5 文法問題 頻出パターン20+ α 」（「資料2」として本論文の末尾に添付）を受講生に演習前に配付し、頻出文法パターンを確認させるとともに、演習後にはそれぞれの問題がどの頻出文法パターンに該当するのかをクラス全体で確認することで、受講生が出題パターンに慣れるように指導している。

いっぽう、「語句問題」に関しては、有効な指導方法を未だに見つけられていないと筆者は感じているのであるが、現在のところは以下の2点を伝えている。ひとつ目は、問題文と選択肢に既知の語句が増えると、問題文をより速く、より正確に読めるようになり、さらに、誤答選択肢かどうかの判断をより確実にできるようになることで4択の問題が3択や2択の問題として解答できることで、正答によりたどり着きやすくなる。したがって、既知の語句を増やすため、経済学部の1年生・2年生の学年共通小テストのテキストとして使用している『TOEIC® Test 単語 頻度順徹底マスター』の語句をできるだけ早くマスターするように指導している。ふたつ目は、以前の論文での分析結果から、「語句問題」においては問題文の語数が多いと問題の難易度が高くなる傾向にある（2021, 井上119）ことがわずかながら見て取れたので、問題文の語数がかかり多い「語句問題」には特に時間をかけ過ぎないことを指導している。

最後に、同じ以前の論文で、「文法問題」の正答率が「語句問題」のそれよりも10ポイント高い（2021, 井上118）ことが確認できたので、「文法問題」で正答数をしっかりとかせぐこと、「語句問題」に時間をかけ過ぎないようにすることを指導している。

次項では、「文法問題」と「語句問題」の正答率の高いもの・低いものを提示することを通して、受講生の得意・不得意の傾向を見てみたい。

3. 正答率から得意・不得意の傾向を見る

今回分析を行なった問題は、『公式 TOEIC® Listening & Reading トレーニング リーディング編』の Section 1 から Section 10 までの Part 5 の50問である。筆者の授業では、問題については自宅で課題として解いてこさせることはせず、さらに、どのパート・どのページを演習するのも事前には知らせず、すべての問題を授業時に演習して解説を行な

い、受講生には復習を十分にさせるスタイルを取っている。

今回の50問については、授業運営の都合上 Section 1 と Section 2, Section 3 から Section 5, Section 6 から Section 10 というように分けて、連続した3回の授業内ではなく、一定の期間を空けた3回の授業内で演習が行なわれた。また、GF に関しても、授業終了後に送信するのではなく、それらの問題を演習後すぐに授業内で送信してもらった。その際に、「これはアンケートで、各自の正答数で点数を付けるのではなく、送信すれば全員同じ点数がつくので、不正解が多くても気にせずに自分の解答例を送ってください」と念を押した。

したがって、今回のデータについては、課題として事前に解かせていない・どの問題をするのか事前に知らせていないことから受講生は初見で問題を解いている。また、GF を演習後すぐに送信してもらう・正答数が多いと成績が良いのではないことを認識してもらうことから受講生は成績を意識せずに自分の解答例を送っている。以上のことから、受講生の得意・不得意の傾向がより自然な形で反映されたデータが取れていると考えている。

さて、以前の論文において、経済学部 の 2 年生 36 名 (4 月時点での平均 TOEIC スコア 576.5, リーディング 263.8) を対象に『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集 1』を用いて分析したデータでは、Part 5 の正答率は Test 1 で 65.0%, Test 2 で 70.6% (2021, 井上105) であった。そのうち、「文法問題」に関しては Test 1 で 71.1%, Test 2 で 72.1%, 「語句問題」に関しては Test 1 で 54.4%, Test 2 で 68.3% であり、Test 1 と Test 2 を合わせた数値は「文法問題」で 71.6% 「語句問題」で 61.7% であった (2021, 井上118)。

いっぽう、今回の分析では、Part 5 の正答率は 65.2% であり、「文法問題」で 69.8% 「語句問題」で 59.4% であった (小数点以下第 2 位を四捨五入)。分析対象学生も問題も異なるが同様の傾向が見受けられ、『文法問題』の正答率が『語句問題』のそれよりも 10 ポイント高い」ことがここでも確認できた。したがって、その数値を伝えて、『文法問題』で正答数をしっかりとかせぐこと、『語句問題』に時間をかけ過ぎないようにすること」という指導方法はまちがっていないことが改めて明らかになった。

それでは、まずは、「文法問題」の正答率が低い 1 位から 5 位までの問題を見てみる。問題文の前の数字は Section 番号—問題番号、問題文の後ろのカッコ内の数字は正答の語句を除いた問題文の語数、選択肢の後ろの数字は回答率 (小数点以下第 1 位を四捨五入。したがって、合計が 100 になっていない場合がある) を表しており、さらに、正答の選択肢を四角で囲っている。

7-3 While remaining —— to customers who have supported it for decades, McGill Electronics will diversify in all areas of its business. (20)

- (A) loyalty 39 (B) loyalties 23 (C) loyally 13 (D) loyal 25

ワースト1位の文法事項は、「資料2」では「パターン9 be動詞の補語になる形容詞★『名詞の複数形』『抽象名詞』が入る可能性もある」に該当する。remainは準be動詞なので、抽象名詞(A)(B)も補語にできるが、人の性格を形容詞で表現するように、会社の「顧客を裏切らない」体質を形容詞(D)で表現する。remainを他動詞とみなし、その目的語として抽象名詞(A)(B)を選択したというよりは、loyalが難易度がやや高い語であることが正答率の低さにつながっているのではないかと感じている。

3-2 —— to Lotus Restaurant have nearly doubled the size of the seating area. (12)

- (A) Improved 18 (B) Improvement 13
(C) Improvements 40 (D) Improving 29

ワースト2位は、「パターン2 文の主語になれるのは名詞(のはたらきをするかたまり)だけ」と「パターン4 主語と動詞の単数・複数的一致」の組み合わせである。名詞と動名詞の(B)(C)(D)から、動詞haveに合う複数形の(C)を選択する。パターン4は急いで解いているとどうしてもまちがえやすくなる事項である。

8-4 Had negotiations not broken down at the last minute, Laureano, Inc., —— with its main competitor, Trevino-Martin. (17)

- (A) has merged 16 (B) would have merged 45
(C) had merged 31 (D) will have merged 8

ワースト3位は、「仮定法過去完了におけるifの省略による倒置」という文法事項である。If negotiations had not broken down … という元の文を作ることができれば(B)を選択できるので、倒置に気付くことができるかどうかにかかっている。気付けなかった受講生が文の前半の動詞の形に合わせて(C)を選んでいる。

2-4 These copy machines are the property of Drittel Manufacturing and are

intended for business —— only. (15)

(A) use 48 (B) useful 15 (C) used 16 (D) usefully 21

ワースト4位は、「パターン7(冠詞+)形容詞(または形容詞用法の名詞)+名詞」と「パターン1 前置詞のうしろには必ず名詞(のはたらきをするかたまり)が入る」の組み合わせである。businessを前置詞forの目的語になる名詞とみなして(A)以外を選択する受講生が多かったが、前置詞の目的語はここでは名詞(A)であり、businessは(A)を修飾する「形容詞用法の名詞」のはたらきをしている。名詞を形容詞として使うことは非常に多いことを受講生に再認識させる必要があるようだ。また、business use「業務での利用」という意味になるのが適切、つまり、最後は文法よりも文意から前置詞forの目的語としてbusinessよりもuseが適切という判断をしなければならない点が、正答率を下げていると思われる。パターン7は最頻出の事項なので、冠詞がないパターンや名詞が形容詞の役割をするパターンなどの変化形に十分に慣れておきたい。

3-4 This week only, spend \$200 and your order —— for free overnight shipping. (12)

(A) qualification 24 (B) qualifies 55 (C) qualify 15 (D) qualifying 6

ワースト5位は「パターン4」の文法事項である。問題文がThis week onlyと主語に見える語句で始まっていたり、spend \$200の後ろにコンマがないことから、「命令文(,) + and … (～しなさい, そうすれば…)」の構文に見えにくいことが正答率を下げている要因のひとつであると感じている。構文に気付きさえすれば、単数の主語orderに合わせて(B)を選択できる。また、(A) (D)を誤答と判断するのは結局のところ文意からの判断になる(spendの目的語としてqualificationやorderでは文意が取れない)ことが、正答率を下げているさらなる要因である。

いっぽう、「文法問題」の正答率が高い1位から5位までは以下のようになっている。

2-3 Holloway Department Store will both expand its women's clothing line —— introduce a children's line. (14)

(A) but 3 (B) nor 2 (C) or 5 (D) and 90

ベスト1位は「パターン16 TOEICはboth A and B, either A or B, neither A nor B,

not only A but also B が大好き」となった。TOEIC はこのパターンを好んで出題するが、受講生は非常によく知っている構文なので正答率が上位に来ることは予想できる。

6-5 Sylvia Cho —— her training at Frio County Animal Hospital last week and will begin working as a veterinary technician. (19)

(A) will conclude 3 (B) to conclude 2 (C) concludes 5 (D) concluded 90

同率のベスト1位は、last week をキーワードに過去形 (D) を選ぶという、日本での英語学習者にとっては平易な問題であった。

1-2 Staff who need to replace —— equipment must submit an upgrade request form. (12)

(A) them 7 (B) their 85 (C) themselves 5 (D) theirs 3

ベスト3位は「パターン19 代名詞の格」となった。replace が第4文型や第5文型を取る動詞ならば後ろに(代)名詞がふたつ並ぶので、replace の間接目的語としての(A)(C)(D)の可能性はある。しかし、受講生にくり返し伝えていることは、「高校1年生で覚えた『第4文型と第5文型で使う動詞』は、それがほぼすべての第4文型と第5文型で使う動詞である」ということである。したがって、replace が該当しない動詞であることがわかれば簡単に(B)を選択できる。

3-1 Aria Fletcher will discuss the advertising budget with the board of directors when they meet —— next month. (17)

(A) formal 3 (B) formalize 10 (C) formally 84 (D) formalities 3

ベスト4位は、「パターン14 動詞の前または後に入り、動詞を修飾する副詞 ★名詞を入れないように注意」という事項である。meet は第3文型も取るので名詞(D)の可能性はあるが、明らかに文意にそぐわないためか、選択した受講生はほとんどいない。

4-3 Until the telephone system is repaired, callers may experience delays of ten minutes or —— . (14)

- (A) length 11 (B) lengthily 2 (C) longest 3 (D) longer 84

同率のベスト4位は、「パターン17 and で並列関係になっている品詞」の and を同種類の or に置き換えた事項である。ten minutes との並列関係から名詞 (A) の可能性はあるが、ten minutes との比較対象にはならない語である。ここでは、隠れている部分 longer (than ten minutes) を補い、見た目は形容詞であるが実際のところは名詞表現である (D) を選ぶ。

6-3 — its electronic publishing division lost money last year, Gwangmyeong Press expects it to earn a profit this year. (18)

- (A) Although 84 (B) As soon as 5 (C) When 5 (D) Owing to 7

最後はこれも同率のベスト4位で、「パターン5 2つの『S+V』をつなぐのは前置詞(や副詞)ではなく接続詞」である。its electronic publishing division lost と Gwangmyeong Press expects で「S+V」が2つあることが確認できれば、あとは (A) (B) (C) から文意で (A) を選ぶ。裏表の文法事項となる「パターン6 名詞(のかたまり)を『S+V』につなぐのは接続詞(や副詞)ではなく前置詞(句)」とともに多く出題される事項であるが、こちらが思っているよりは受講生には難易度の高い事項であると筆者は感じている。ここでは、文の前半と後半に対比する内容を容易に見て取れるので正答率が高くなっている。

それでは、ここからは、「語句問題」の正答率が低い1位から5位までの問題を見てみる。

7-4 The XT 1000 is one of the most — home-kitchen scales on the market, providing accurate measurement to the milligram. (19)

- (A) tentative 18 (B) deliberate 15 (C) investigative 30 (D) sensitive 38

ワースト1位は、scales 「はかり」と accurate 「正確な」をキーワードに (D) 「感度の良い」を選ぶ。選択肢に難易度の高い語が並ぶため、最難問であることは理解できる。

8-1 Due to her strong — in tax law, Ms. Sakai was a natural choice to lead

Celina Legal Associates. (18)

(A) summit 7 (B) opposition 30 (C) evidence 25 (D) background 39

ワースト2位は、直前の形容詞 strong とのコロケーションから「強硬な反対」となる(B)か、「強力な証拠」となる(C)を選びたくなる。しかし、文意を考えると、「十分な背景(知識)(=基礎知識)」という意味になる(D)が正答である。

6-4 Payments postmarked after the due date are —— to a late fee of five percent of the total amount due. (19)

(A) subject 41 (B) intact 13 (C) suspect 34 (D) distinct 11

ワースト3位は、Prices are subject to change without notice. (価格は予告なく変更になる場合があります) という定型文でよく見かける熟語 be subject to 「～の場合がある(←～の影響を受けやすい)」の問題である。選択肢に難易度の高い語が並ぶので、名詞の意味を知っている subject や動詞の意味を知っている(C)を選択しているようだ。

3-5 Tour participants must be on time as the bus will depart —— at 8:00 a.m. tomorrow. (15)

(A) promptly 44 (B) formerly 29 (C) frequently 16 (D) annually 11

ワースト4位は、副詞の問題なので、ふつうの考え方では動詞との意味のつながりで解答を選ぶわけであるが、それではうまく行かず、細かい文法の知識も必要とする難問である。ここでは(A)だけが、直前の動詞 depart ではなく、「明日の8時ちょうどに」の意味になるように直後の前置詞句 at 8:00 a.m. tomorrow を修飾している。(B)はformally「正式に」とまちがえているのではないかと思われる。

8-5 In a carefully worded statement, Tae-Hyun Bak —— his reasons for withdrawing his name from consideration in the search for a new Coult-Ross CEO. (23)

(A) outlined 48 (B) detected 23 (C) familiarized 15 (D) achieved 15

TOEIC® Listening & Reading Test の Part 5 について考察する (井上)

ワースト 5 位は, a carefully worded statement 「慎重に言葉を選んだ声明」をキーワードに, 選択肢の中で唯一「述べる」という意味を含む (A) を選ぶ。

続けて, 「語句問題」の正答率が高い 1 位から 5 位までの問題を見てみよう。

9-2 Many community members attended the fund-raising event — the Magistra Banquet Hall. (11)

(A) at 89 (B) to 7 (C) upon 3 (D) during 2

ベスト 1 位では, Banquet Hall が場所を表していることがわかれば, 場所を示す前置詞 (A) を容易に選択することができる。

9-4 This coupon is valid on your next — of €20 or more from Dunmore Markets. (14)

(A) purchase 80 (B) decision 5 (C) budget 15 (D) task 0

ベスト 2 位は, 選択肢に基本の語が並ぶので, まず, €20 or more をキーワードに, お金に関連する語である (A) と (C) にしぼりこむことができる。次に, キーワード coupon 「クーポン券」から, (C) 「予算」よりは (A) 「購入」がより適切という判断ができる。

1-3 Henriksen Accounting offers a year-end financial summary as — of its basic bookkeeping service. (13)

(A) piece 3 (B) division 3 (C) section 13 (D) part 80

同率のベスト 2 位は, 選択肢に基本の語が並ぶので選択しやすい。(D) 以外は冠詞 a が必要で, part of は冠詞 a があってもなくても良いという語法を受講生が知っていれば, もっと正答率は高くなったと思われる。

2-2 Updates to the client accounts database are scheduled to begin — 5:00 p.m. (12)

(A) against 5 (B) above 11 (C) after 75 (D) along 8

ベスト4位はベスト1位と同様に前置詞の問題である。5:00 p.m. という時間を表すキーワードから (C) を選択する。正答率がベスト1位よりも5ポイント低いのは、受講生にとっては問題文の語句のレベルがより高いので、むずかしく考えてしまうのかもしれない。

8-2 — its lack of a large conference center, Stone City is a good choice of location for the Federated Freelancers' yearly meeting. (21)

(A) Instead of 15 (B) In spite of 74

(C) Rather than 10 (D) No sooner than 2

ベスト5位は、受講生がよく知っている熟語が選択肢に並んでいるので、正答を選びやすい。ここでは、文の前半と後半で内容が対比されている（「欠けているのに、良い選択である」）ことが容易に見て取れるので、さらに (B) を選びやすくなっている。

さて、ここまで正答率の高い・低い問題を具体的に提示することで、本論文の試みのひとつ目「分析結果から見える受講生の得意・不得意の傾向を把握して、前期と同じ受講生を担当する後期科目において活用すること」とふたつ目「受講生の得意・不得意の傾向を他の教員にも共有してもらい、必要な情報をそれぞれの授業で活用してもらうこと」はある程度できたと思うが、三つ目「Part 5の『語句問題』に関する有益な指導方法を見いだすこと」についてはどうであろうか。

上記の分析結果を見たところでは、「語句問題」においては、正答率の高い問題では選択肢に平易な語句が多く、正答率の低い問題では選択肢に難易度の高い語句が多いということは明らかである。したがって、「『語句問題』で選択肢に知らない語句が多い場合には、時間を使いすぎないようにすること」という指導はできそうである。

しかし、分析結果から確かに言えることとはいえ、それだけでは受講生への説得力に欠ける。そこで、以前の論文での分析結果からわずかながら見て取れた、「語句問題」では問題文の語数が多いと問題の難易度が高くなる傾向にある（2021, 井上119）ことが、はっきりと言えることなのかどうかを次項で検証してみたい。

4. 問題文の語数と難易度には関連性があるのか

今回分析した50問のうち、「文法問題」28問の平均語数は14.9語、「語句問題」22問で

は16.0語 (小数点以下第2位を四捨五入。以下同様) であった。そのうち、「文法問題」の平均正答率 69.8%以上の14問の平均語数は14.6語で、69.8%未満の14問では15.2語であり、いっぽう、「語句問題」の平均正答率 59.4%以上の9問の平均語数は15.4語で、59.4%未満の13問では16.5語であった。ここまででは、問題文の語数が多いと難易度が高くなるという関連性は、「文法問題」と比較すると「語句問題」において顕著に見られるが、さほど大きな関連性を示しているとは言えない。

ところが、前項で取り上げたベスト5位とワースト5位の数値を見てみると、「文法問題」のベスト5位の6問の平均語数は15.7語で、ワースト5位の5問では15.0語であるが、いっぽう、「語句問題」のベスト5位の5問の平均語数が14.2語であるのに対して、ワースト5位の5問では18.6語であった。つまり、「文法問題」に関しては、難易度が高い問題においても低い問題においても問題文の語数はほぼ変わらないが、「語句問題」に関しては、難易度が高い問題では問題文の語数が明らかに多いことが示された。

サンプル数が十分であるとは決して言えないので、続けて調査していく必要はあるが、現時点のデータでは、問題文の語数が多いと難易度が高くなるという関連性は明らかに示されている。したがって、受講生に対して、『「語句問題」で選択肢に知らない語句が多い場合には、時間を使いすぎないようにすること』に加えて、『「語句問題」で問題文の語数が多い問題では問題の難易度が高い場合が多いので、そのような問題には時間を使いすぎないようにすること』という指導をしてみることにする。

5. お わ り に

本論文では、1年生のリーディング・クラスにおいて教科書として使用した『公式 TOEIC® Listening & Reading トレーニング リーディング編』の Part 5 の50問について、Google Forms で収集した回答を分析することを通して、①分析結果から見える受講生の得意・不得意の傾向を把握して、前期と同じ受講生を担当する後期科目において活用すること、②受講生の得意・不得意の傾向を他の教員にも共有してもらい、必要な情報をそれぞれの授業で活用してもらうこと、③Part 5 の「語句問題」に関する有益な指導方法を見いだすことを試みた。

まず、①については改めてじっくりと分析データを検証することで把握できた、受講生の得意・不得意の傾向を後期の授業で活用できそうである。次に、②については、具体的な例を提示することができたので、有益だと思っていただけ情報を授業で活用していた

できれば大変うれしく思う。最後に、③については、これまでの指導方法「既知の語句が増えると、問題文をより速く、より正確に読めるようになり、誤答選択肢かどうかの判断をより確実にできるようになるので、正答によりたどり着きやすくなる。したがって、学年共通小テストのテキストを活用して語彙を増やそう」と、『『語句問題』においては問題文の語数が多いと問題の難易度が高くなる傾向にあるので、問題文の語数が多い『語句問題』には時間をかけ過ぎないようにしよう』の后者に関して、その論を補強することはできたが、画期的かつ有効な指導方法を見つけることはできなかったので、引き続き研究していきたい。

引 証 文 献

- [1] Educational Testing Service. 『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集 1』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2016年10月.
- [2] ——. 『公式 TOEIC® Listening & Reading トレーニング リーディング編』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2017年6月.
- [3] 井上 治. 「TOEIC® Listening & Reading Test の各パートの指導方法を再考する——学生の解答データの追加分析を通して」『生駒経済論叢』（近畿大学経済学会）第19巻第2号（2021年11月）：103-132.

参 考 文 献

- [1] 井上 治, Lance Burrows, 吉野成美, Paul Leeming. 『TOEIC® Test 単語 頻度順徹底マスター スコア 450・550・650 をめざす600語+66表現』東京：音羽書房鶴見書店，2014.

資料1 各問題の回答の分布 (1-1-1 は Section 1 の問題番号 1 で文法問題[-2 は語句問題]であることを示す。各問題の正答は数値を四角で囲っている。なお、小数点以下第1位を四捨五入しているため、問題によっては数値の合計が100になっていない。)

	A	B	C	D		A	B	C	D
1-1-1	5	26	0	69	6-1-2	7	5	16	72
1-2-1	7	85	5	3	6-2-1	15	67	15	3
1-3-2	3	3	13	80	6-3-1	84	5	5	7
1-4-1	8	64	7	21	6-4-2	41	13	34	11
1-5-2	61	20	7	13	6-5-1	3	2	5	90
2-1-1	77	8	7	8	7-1-1	20	3	64	13
2-2-2	5	11	75	8	7-2-2	5	30	56	10
2-3-1	3	2	5	90	7-3-1	39	23	13	25
2-4-1	48	15	16	21	7-4-2	18	15	30	38
2-5-2	32	8	50	10	7-5-1	5	11	69	15
3-1-1	3	10	84	3	8-1-2	7	30	25	39
3-2-1	18	13	40	29	8-2-2	15	74	10	2
3-3-1	2	23	73	3	8-3-2	52	13	15	20
3-4-1	24	55	15	6	8-4-1	16	45	31	8
3-5-2	44	29	16	11	8-5-2	48	23	15	15
4-1-1	11	6	15	68	9-1-1	8	0	79	13
4-2-2	21	69	6	3	9-2-2	89	7	3	2
4-3-1	11	2	3	84	9-3-1	8	15	74	3
4-4-2	16	54	8	22	9-4-2	80	5	15	0
4-5-1	81	10	5	5	9-5-1	82	7	7	5
5-1-2	6	58	15	21	10-1-1	16	10	5	69
5-2-1	10	3	10	77	10-2-2	13	10	24	53
5-3-2	63	19	13	5	10-3-1	7	5	10	79
5-4-2	3	24	53	19	10-4-1	23	66	7	5
5-5-1	25	65	5	5	10-5-2	26	58	8	8

資料2 「TOEIC® Part 5 文法問題 頻出パターン 20 + α 」

- パターン1 前置詞のうしろには必ず名詞（のはたらきをするかたまり）が入る
- パターン2 文の主語になれるのは名詞（のはたらきをするかたまり）だけ
- パターン3 「冠詞+カッコ+次のかたまり」ならば、カッコには名詞が入る
- パターン4 主語と動詞の単数・複数的一致
- パターン5 2つの「S+V」をつなぐのは前置詞（や副詞）ではなく接続詞
- パターン6 名詞（のかたまり）を「S+V」につなぐのは接続詞（や副詞）ではなく前置詞（句）
- パターン7 （冠詞+）形容詞（または形容詞用法の名詞）+名詞
- パターン8 形容詞の最上級「the most +形容詞」
- パターン9 be 動詞の補語になる形容詞 ★「名詞の複数形」「抽象名詞」が入る可能性もある。
- パターン10 be 動詞+副詞+形容詞
- パターン11 受動態に割り込む副詞：be 動詞+副詞+過去分詞
- パターン12 動詞と前置詞のあいだに割り込む副詞 ★名詞を入れないように注意
- パターン13 助動詞と動詞のあいだに割り込む、および、to 不定詞に割り込む副詞
- パターン14 動詞の前または後に入り、動詞を修飾する副詞 ★名詞を入れないように注意
- パターン15 動名詞を修飾する副詞 ★前置詞のうしろに名詞の大きなかたまりを完成させる
- パターン16 TOEIC は both A and B, either A or B, neither A nor B, not only A but also B が大好き
- パターン17 and で並列関係になっている品詞
- パターン18 2つの名詞（のかたまり）をつなぐ現在分詞
- パターン19 代名詞の格
- パターン20 order, suggest, propose, demand, require, request, recommend などの動詞（その名詞形の場合もある）に続く that 節中の動詞は「原形（仮定法現在形）」
- 最新パターン 「副詞+形容詞（特に過去分詞の形容詞的用法）+名詞」★副詞が直後の形容詞を修飾